

松江

◆森を守る
活動で6団体
に奨励賞 山陰両県で森
林保全に取り組む団体で
つくる「森林（もり）を
守ろうー山陰ネットワー
ク会議」の総会が12日、
約90人が出席して松江市
朝日町の松江エクセルホ
テル東急であった。

森林保全活動に力を入
れ、同会議から奨励賞を



環境保全の取り組みを
紹介する出雲西高校イ
ンターアクトクラブの
メンバー

受けた6団体のうち、2
団体が活動を報告した。
出雲市の出雲西高校イン
ターアクトクラブの生徒
は、卵から育てたサケの
稚魚約8万匹を3月に神
戸川に放流した取り組み
を紹介した。

2015年度事業とし
て、両県で開かれる森林
保全イベントで募金を行
うこと、10、12月に会員
一斉活動を行うことを確
認した。

同会議は山陰合同銀行
がNPO法人やボランティア
がNPO法人やボランテ
リア団体に呼び掛けて組
織。51団体が加入してい
る。

◆震災直後の福島民報
寄贈 一般財団法人・人
間自然科学研究所（松江
市乃木福富町、小松電機
産業内）がこのほど、東
日本大震災の発生直後に
発行された福島県の地元
紙「福島民報」を、松江
市西津田6丁目の市立中
央図書館に寄贈した。

震災発生翌日の201
1年3月12日から1カ月
分の新聞で、福島で水管
理システムを運用する小
松電機産業社員が当時、

吉田紀子館長（左から2
人目）らに、寄贈した福
島民報を披露する小松昭
夫理事長（中央）



現地を訪れた際に住民か
ら譲り受けた。資料とし
て活用してもらおうと、
図書館に託した。

館内で寄贈式があり、
津波が車や漁船を押し流
す様子や原発事故が大き
く扱われた紙面を、小松
昭夫理事長が広げて披露
した。

同館は11年6月15日以
降の福島民報を所有して
おり、吉田紀子館長は
「震災直後の情報も利用
者に提供できる」と感謝
した。求めに応じて館内
で閲覧できるようにする
という。